

## 全国大会の話

……でも、そんなのカンケーねえ！なんて言っていると損しますよ。全道大会を目指す矢印→をもっと先までずーっと延ばしたら、そこには全国大会があります。それをもっともっとなんて延ばしていけば、そこにはシャラポワやフェデラーもいる。出られるかどうかじゃなくて、そうやって目標にし、憧れて、心の中の→を長くすることが、きっとあなたを向上させてくれるはずです。

オイオイ、また→の向きがずれてるぞ。練習サボってる場合かよ。→が短いとなかなか的が定まらないんだよなあ……それはさておき、“全国大会”の話です。

一つ目は選抜大会（全国選抜高校テニス大会）。春の甲子園や春高バレーと同じような位置づけで、毎年3月20日過ぎに九州の福岡市で開催されます。北海道からは秋季全道大会の上位2校が出場できる団体戦の全国大会です。他の地域では、各都府県大会の上位2校が、東北大会や関東大会など全国9つのブロック大会に集まって代表を決めるため、2校出場する県もあれば、1校も出場できない県もあります。男女それぞれ50校が出場し、開会式などのセレモニーはとても華やかですが、試合そのものは観客もそれほど多くない会場で淡々と進められ、純然たる競技会の趣があります。福岡市が札幌市と同じような大都市だということもあって、大会名の入ったノボリが町のあちこちで見られる以外は、それほど歓迎ムードもないようです。また、この大会は8月のインターハイを目標にして力をつけるための“通過点”の全国大会でもあります。大会に先立って、福岡周辺のコートで大がかりな練習試合が開かれ、交流を深める学校も多いようです。2回戦に進出したチームのエースだけが出場できる個人戦もあります。

もう一つは、高校総体（全国高等学校総合体育大会）です。インターハイとも呼ばれます。この大会には6月の全道大会（47都道府県大会）で勝った団体各1校と個人の代表が出場します。去年は佐賀で開催されました。今年は埼玉、来年は奈良、再来年は沖縄で開催されることが決まっています。毎年8月、すべての競技が一カ所に集まるのです。全体で20日以上もかかる大会期間中、地方都市はスポーツウエアの高校生だらけ。会場にはスポーツ用品や大会関連グッズ、それに便乗グッズ（「総体饅頭」みたいな）を売る店もたくさん出て、お祭りのような賑わいです。町の規模や地域の関わり方にもよりますが、概ね町を挙げての大歓迎で高校生を迎えてくれます。そして3年生にとっては、これが高校生活最後の、いわば“ゴール”の大会。終わりが近づくと一抹の寂しさも訪れます。山梨県の甲府で行われたインターハイに参加して、札幌に帰る前の日に、私は駅前の喫茶店に入りました。「どこから来たの？」というマスターの質問に「札幌です」と答えたことから始まった会話で意気投合し、帰り際にお金を払おうとすると、「いいよいよ、わざわざ札幌から来てくれたんだから。その代わりまた甲府に来てよね」なんていう思い出も……。残念ながら、マスターとの約束は、まだ果たしていません。